

電波法令とメーカーマニュアルの規定値比較一覧（要約版）

※ 電波法令とメーカーマニュアルとの差異の部分のみ以下の表に記載。

平成24年11月27日

【HF帯航空無線電話】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由
1 送信装置			
(1) 電波の質 ア 周波数の偏差	20Hz (1606.5kHz を超え 29.700kHz 以下の周波数の電波を使用する航空機局の無線設備 (単側波帯の無線電話及び無線データ伝送のものを除く。) については、100ppm)	±20Hz	メーカーマニュアルは中心周波数を基準にして規定しているため、「±」が付いているもの。 よって、実質上の差異はない。
(2) 変調度	85%以上 【無線設備規則第45条の10より】	70%の歪みで15%以下 (全航連回答より) ※ 大型機に該当無し。	小型機では、変調度が85%以上とされている機器もあるが、左記のような機器も存在している。 (大型機については、A2A、A2B、A2D、A3Eの電波の型式を有していないため (無線設備規則第45条の10に規定されていないため)、変調度の測定が省略される。)
(3) 空中線電力	上限：20% 下限：50% 【無線設備規則第14条より】	88Wから157W (平均電力)	メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。

2 受信装置			
(1) 感度	◎ J3E 電波 28MHz 以下の周波数を使用するもの 1,000Hz の変調周波数において、装置の全出力とその中に含まれる不要成分との比を 20dB とするために必要な受信機入力電圧が $3\mu\text{V}$ 以下 【無線設備規則第 45 条の 11 より】	【全航連】 ・ A3J (SSB) NMT $1\mu\text{V}$ for 10dB (S+N/N) ・ AM (A3H) NMT $3\mu\text{V}$ for 6dB (S+N/N)	
	◎ J2D 電波 22MHz 以下の周波数を使用するもの $1\mu\text{V}$ 入力時の信号対雑音比は、10dB 以上 【無線設備規則第 45 条の 11 より】	—	

【VHF帯航空無線電話】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由
1 送信装置			
(1) 電波の質	次の事項について、その適否を調べる。		
ア 周波数の偏差	30ppm (G1D電波を使用する場合は $5(10^{-6})$ ppm) 【無線設備規則第5条より】	±600Hz（周波数が131.6MHzの場合、約4.6ppmに相当）で電波法令の範囲内。	表記方法の違いであり、実質上の差異はない。
(2) 変調度	85%以上 【無線設備規則第45条の10より】	70%以上	測定条件の差異により、ICAO ANNEX10とRTCAの規定値が異なっているものであり、実質上の差異はない。 (電波法令による検査方法) 検査事項1の(1)アの周波数について、発射電波の変調度を測定し、その適否を調べる。
(3) 空中線電力	上限：20% 下限：50% 【無線設備規則第14条より】	25W以上 (自動計測では25W～33W、周波数は118、126.5、136.975MHz)	メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。

2 受信装置			
(1) 感度	<p>◎ 118MHz～142MHz までの周波数を使用する無線設備（G1D 電波を使用するものを除く）</p> <p>信号対雑音比を 6dB とするために必要な受信機入力電圧が、1,000Hz の周波数で 30%変調されたものの場合において、10μV 以下</p> <p>【無線設備規則第 45 条の 12 より】</p>	<p>6 dB 以上</p> <p>変調信号は 2μV、1000Hz、30%</p>	<p>測定法の違いによる差異であり、実質上の差異はない。（メンテナンスマニュアルでは、減衰器を装着して測定することとされているため、その分を差し引いた値で規定されている。）</p>
	<p>◎ 118MHz～142MHz までの周波数を使用する無線設備（G1D 電波を使用するもの）</p> <p>空中線の利得が 2.15dB、給電線の損失が 3dB の場合において、誤り訂正後におけるビット誤り率が 0.01%となる時の受信入力レベルが(-)94dB（1mW を 0dB とする。）以下</p> <p>【無線設備規則第 45 条の 12 より】</p>	<p>ビット誤り率 0.001%以下の時の受信入力レベルが-99dBm以下</p>	<p>同上</p>

(2) 選択度	<p>◎ 118MHz～142MHz までの周波数を使用する無線設備（G1D 電波を使用するものを除く）</p> <p>○ 一信号選択度</p> <p>・通過帯域幅</p> <p>1,000Hz の周波数で 30%変調をされた受信機 入力電圧を受信装置の最大感度の点から 6dB 高い値で加えた場合において、当該装置の最大感度時における出力と同等の出力となる時の幅が割当周波数から当該割当周波数の(±)0.005% (オフセット・キャリアを受信する場合は、割当周波数から(±)8kHz) 以上</p>	<p>【25kHz 間隔の場合】</p> <p>17kHz 以上 (幅の値)</p> <p>【8.33kHz 間隔の場合】</p> <p>5.8kHz 超 (幅の値)</p> <p>※6dB 低下点を測定。</p> <p>無変調信号の入力を 2μV と 4μV で AGC 電圧で比較</p>	<p>メンテナンスマニュアルの規定値が電波法令の規定値の範囲内に設定されているもの。</p>
	<p>・減衰量</p> <p>1,000Hz の周波数で 30%変調をされた受信機 入力電圧を加えた場合において、当該装置の最大感度時における出力と同等の出力となる時の当該受信機入力電圧の 40dB 低下の帯域幅が(±)17kHz 以内、60dB 低下の帯域幅が(±)25kHz 以内</p>	<p>【25kHz 間隔の場合】</p> <p>34kHz 未満 (幅の値)</p> <p>【8.33kHz 間隔の場合】</p> <p>14kHz 未満 (幅の値)</p> <p>※60dB 低下点を測定。</p> <p>無変調信号の入力を 2μV と 2mV で AGC 電圧で比較</p>	<p>メンテナンスマニュアルの規定値が電波法令の規定値の範囲内に設定されているもの。</p>

【ATC トランスポンダ】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由															
2 空中線電力	上限：50% 下限：50% 【無線設備規則第14条より】	<p>【定航協】 送信電力を測定し、以下の許容値内であることを確認する。 250 W 以上、631 W 未満</p> <p>【全航連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 200W peak minimum ・ 400W (nominal) <p>【Peach】</p> <table border="1" data-bbox="1111 732 1512 1222"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dB)</th> <th>Max (dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Output Power - F1</td> <td>250</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>Output Power - F2</td> <td>250</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>Output Power - B1</td> <td>250</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>Output Power - Mode S</td> <td>250</td> <td>630</td> </tr> </tbody> </table> <p>【海外物産】 200W min.</p>	Test-Name	Min (dB)	Max (dB)	Output Power - F1	250	630	Output Power - F2	250	630	Output Power - B1	250	630	Output Power - Mode S	250	630	<p>メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10 に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。</p>
Test-Name	Min (dB)	Max (dB)																
Output Power - F1	250	630																
Output Power - F2	250	630																
Output Power - B1	250	630																
Output Power - Mode S	250	630																

【ACAS- I】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由						
1 送信装置									
(2) 空中線電力	上限：50% 下限：50% 【無線設備規則第14条より】	omni antenna minimum +47dBm (50W), maximum +51dBm (126w) directional antenna minimum +47dBm (50W), maximum +51dBm (126w), nominal +49dBm (79w)	メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。						
(3) 送信パルスの特性等									
質問信号及び抑圧信号の特性									
ア 各パルスの幅	(1) 各パルスの幅 モードCあるいは、モードSの状態にした後、以下の基準に適合しない場合は、相当措置するよう指示する。 <table border="1" data-bbox="533 979 999 1275"> <tr> <td>S, P1, P2, P3, P4 パルス幅</td> <td>0.8±0.075 μs</td> </tr> <tr> <td>P6(短：56ビット) パルス幅</td> <td>16.25±0.125 μs</td> </tr> <tr> <td>P6(長：112ビット) パルス幅</td> <td>30.25±0.125 μs</td> </tr> </table>	S, P1, P2, P3, P4 パルス幅	0.8±0.075 μs	P6(短：56ビット) パルス幅	16.25±0.125 μs	P6(長：112ビット) パルス幅	30.25±0.125 μs	S, P1, P2 0.80±0.05 μsec P6 (short) 16.250±0.125 μsec P6 (long) 30.250±0.125 μsec	S、P1、P2のパルス幅が電波法令の規定値とメンテナンスマニュアルの規定値とで異なるが、メンテナンスマニュアルの規定値が電波法令の規定値の範囲内に設定されているので特段問題はない。
S, P1, P2, P3, P4 パルス幅	0.8±0.075 μs								
P6(短：56ビット) パルス幅	16.25±0.125 μs								
P6(長：112ビット) パルス幅	30.25±0.125 μs								

2 受信装置

感度

(1) 1,087 MHzから1,093 MHzまでの周波数の範囲における感度(空中線が四分の一波長の単一型であつて、かつ、給電線の損失が3dBの場合において、解読率(応答信号の受信回数に対する識別回数の百分比をいう。)が90%となる場合の応答信号の尖せん頭電力をいう。以下この条において同じ。)は、(-)73dB以下(1mWを0dBとする。)であること。

(2) 一信号選択度における減衰量は、次の表の上欄に掲げる区別に従い、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりのものであること。

1,090MHzからの差の周波数	減衰量
10MHz以上15MHz未満	20dB以上
15MHz以上25MHz未満	40dB以上
25MHz以上	60dB以上

【無線設備規則第45条の12の11より】

【ACAS- II】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由						
1 送信装置									
(2) 空中線電力	上限： 50% 下限： 50% 【無線設備規則第 14 条より】	【定航協】 52.0 ~ 56.0dBm 【全航連】 omni antenna minimum +47dBm (50W), maximum +51dBm (126w) directional antenna minimum +47dBm (50W), maximum +51dBm (126w), nominal +49dBm (79w) 【Peach】 Port 毎に以下の Power Difference を測定し、リミット値以内であることを確認 <MODE C> <table border="1" data-bbox="1128 1169 1529 1362"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dB)</th> <th>Max (dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Power Difference - P1 to S1</td> <td>+1.5</td> <td>+4.5</td> </tr> </tbody> </table>	Test-Name	Min (dB)	Max (dB)	Power Difference - P1 to S1	+1.5	+4.5	メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10 に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。
Test-Name	Min (dB)	Max (dB)							
Power Difference - P1 to S1	+1.5	+4.5							

		<table border="1"> <tr> <td>Power Difference - P1 to P2</td> <td>- 0.5</td> <td>+0.5</td> </tr> <tr> <td>Power Difference - P1 to P3</td> <td>- 0.5</td> <td>+0.5</td> </tr> <tr> <td>Power Difference- P3 to P4</td> <td>- 0.5</td> <td>+0.5</td> </tr> </table> <p><MODE S></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dB)</th> <th>Max (dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Power Difference - P1 to P2</td> <td>- 0.25</td> <td>+1.0</td> </tr> <tr> <td>Power Difference - P1 to P6 First μ Sec</td> <td>- 0.25</td> <td>+1.0</td> </tr> <tr> <td>Power Difference - P6 First and Last μ Sec</td> <td>- 1.0</td> <td>+1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典 : CMM 34-45-48 : Sample Test Log)</p>	Power Difference - P1 to P2	- 0.5	+0.5	Power Difference - P1 to P3	- 0.5	+0.5	Power Difference- P3 to P4	- 0.5	+0.5	Test-Name	Min (dB)	Max (dB)	Power Difference - P1 to P2	- 0.25	+1.0	Power Difference - P1 to P6 First μ Sec	- 0.25	+1.0	Power Difference - P6 First and Last μ Sec	- 1.0	+1.0	
Power Difference - P1 to P2	- 0.5	+0.5																						
Power Difference - P1 to P3	- 0.5	+0.5																						
Power Difference- P3 to P4	- 0.5	+0.5																						
Test-Name	Min (dB)	Max (dB)																						
Power Difference - P1 to P2	- 0.25	+1.0																						
Power Difference - P1 to P6 First μ Sec	- 0.25	+1.0																						
Power Difference - P6 First and Last μ Sec	- 1.0	+1.0																						
2 受信装置																								
感度	(1) 感度は、次のとおりであること。 (イ) 1,087 MHzから1,093 MHzまでの周波数の範囲における感度は、(-)79dBを超え(-)75dB以下(1mWを0dBとする。)の範囲であること。		—																					

	<p>(ロ) 給電線の損失が3dBの場合において、尖せん頭電力が(-)81dB (1mWを0dBとする。)以下の応答信号に対する解読率は、10%以下であること。</p> <p>(ハ) 給電線の損失が3dBの場合において、尖せん頭電力の値が最大感度の点を3dB超える値以上(-)24dB (1mWを0dBとする。)以下の範囲の応答信号に対する解読率は、99%以上であること。</p> <p>(2) 受信感度の制御は、次のとおりであること。</p> <p>(イ) 最大感度の点を13dB超えるモードCの応答信号を受信した場合、最初のパルスが立ち上がった後21マイクロ秒以上の間、最初のパルスの尖せん頭電力より8dBから10dB低い点まで感度を低下させるものとし、最初のパルスが立ち上がった後26マイクロ秒以内に最大感度まで回復すること。</p> <p>(ロ) 最大感度の点を10dB超えるモードSの応答信号を受信した場合、最初のパルスが立ち上がった後115マイクロ秒以上の間、最初のパルスの尖せん頭電力より5dBから7dB低い点まで感度を低下させるものとし、最初のパルスが立</p>		
--	---	--	--

ち上がった後120マイクロ秒以内に最大感度まで回復すること。

(ハ) パルス幅が0.3マイクロ秒未満の信号を受信した場合、受信感度の制御を行わないこと。

(ニ) 立ち上がり時間が0.5マイクロ秒を超える信号を受信した場合、受信感度の制御を行わないこと。

(3) 一信号選択度における減衰量は、次の表の上欄に掲げる区別に従い、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりのものであること。

1,090 MHzからの差の周波数	減衰量
五・五MHz以上一〇MHz未満	三デシベル以上
一〇MHz以上一五MHz未満	二〇デシベル以上
一五MHz以上二五MHz未満	四〇デシベル以上
二五MHz以上	六〇デシベル以上

【無線設備規則第45条の12の11より】

【機上DME】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由						
1 送信装置									
(2) 空中線電力	上限：50% 下限：50% 【無線設備規則第14条より】	【定航協】 以下のチャンネルの発射電波の電力を測定し、許容値内であることを確認する。 測定チャンネル 許容値 1X (134.40MHz) 500 W minimum 34Y (109.75MHz) 500 W minimum 64X (133.70MHz) 500 W minimum 93Y (114.65MHz) 500 W minimum 126X (117.90MHz) 500 W minimum 【全航連】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 50W peak pulsed power minimum, 100W nominal (出典：KN63 (HONEYWELL/BENDIXKING) I/M (006-00176-0003)) ・ 250W PEP minimum (出典： KDM706A (HONEYWELL/BENDIXKING) I/M (006-0177-02)) 【Peach】 <table border="1" data-bbox="943 1315 1579 1361"> <thead> <tr> <th data-bbox="943 1315 1301 1361">Test-Name</th> <th data-bbox="1301 1315 1447 1361">Min (W)</th> <th data-bbox="1447 1315 1579 1361">Max (W)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	Test-Name	Min (W)	Max (W)				メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10 に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。
Test-Name	Min (W)	Max (W)							

		<table border="1" data-bbox="945 153 1579 300"> <tr> <td>Ch 134.40</td> <td>375.0</td> <td>1500.0</td> </tr> <tr> <td>Ch 117.95</td> <td>375.0</td> <td>1500.0</td> </tr> <tr> <td>Ch 112.2</td> <td>375.0</td> <td>1500.0</td> </tr> </table> <p>(出典： ATP TEST LOG - Sample (Vendor より入手))</p> <p>【海外物産】 250W minimum (出典： KING KDM706 CMM)</p>	Ch 134.40	375.0	1500.0	Ch 117.95	375.0	1500.0	Ch 112.2	375.0	1500.0	
Ch 134.40	375.0	1500.0										
Ch 117.95	375.0	1500.0										
Ch 112.2	375.0	1500.0										
2 受信装置												
<p>感度</p>	<p>(1) 最低ロックオン・レベル(5回の距離測定回数に対して4回の距離表示をするため受信装置の入力端子における応答パルス対(応答率は70%とする。)の尖頭電力の最小値をいう。)は、次のとおりであること。</p> <p>ア 応答パルス対のみを加えた場合 -79dBm以下</p> <p>イ 応答パルス対及び当該応答パルス対の尖頭電力に比して、10dB高い値で毎秒6,000回の不規則なパルスを加えた場合 -76dBm以下</p>	<p>【定航協】 DME 信号発生器をチャンネル 1X (134.40MHz)、出力レベルを-110 dBmにセットする。 出力レベルを徐々に上げていき、ロックオンするレベルを測定する。 許容値： Distance lock-on -110 dBm 以上 -90 dBm 未満</p> <p>【全航連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ -82dBm minimum -87dBm nominal <p>(出典： KN63 (HONEYWELL/ BENDIXKING) I/M (006-00176-0003))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ -85dBm minimum 	<p>メンテナンスマニュアルの規定値が電波法令の規定値の範囲内に設定されているもの。</p>									

(2) 最低トラッキング・レベル
 (距離表示を得たのち当該距離表示を維持するための受信装置の入力端子に加えられる応答パルス対の尖頭電力の最小値をいう。)は、次のとおりであること。

ア 応答パルス対のみを加えた場合 -82dBm以下

イ 応答パルス対及び当該応答パルス対の尖頭電力に比して、10dB高い値で毎秒6,000回の不規則なパルスを加えた場合 -79dBm以下

(出典：KDM706A (HONEYWELL/
 BENDIXKING) I/M (006-0177
 -02))

【Peach】

Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)
134.40 MHz	-103.0	-92.0
117.90 MHz	-103.0	-92.0
117.95 MHz	-103.0	-92.0
110.20 MHz	-103.0	-92.0
112.20 MHz	-103.0	-92.0
112.60 MHz	-103.0	-92.0
114.60 MHz	-103.0	-92.0
116.60 MHz	-103.0	-92.0

(出典：ATP TEST LOG - Sample
 (Vendor より入手))

【海外物産】

-85dBmまたは -90dBm:

【低高度用電波高度計】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由						
1 周波数の偏差	1,250ppm 【設備規則第5条より】	<p>【定航協】 FM変調方式の装置のため、最大周波数と最少周波数を測定している。 ・最大周波数：4335 to 4365MHz ・最少周波数：4235 to 4265MHz (引用：Rockwell Collins LRA-900 Component Maintenance Manual (TESTING) より。以下、定航協については同じ。)</p> <p>【全航連】 4300MHz±15MHz (出典：KRA45B (HONEYWELL/BENDIXKING) I/M (006-10536-0010) 、 KRA405 (HONEYWELL/BENDIXKING) I/M (006-00104-0006))</p> <p>【Peach】</p> <table border="1" data-bbox="916 1118 1550 1219"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dBm)</th> <th>Max (dBm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Frequency (Tx center)</td> <td>4285.0</td> <td>4315.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典) CMM - ATP TEST LOG Example</p>	Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)	Frequency (Tx center)	4285.0	4315.0	
Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)							
Frequency (Tx center)	4285.0	4315.0							

		<p>【海外物産】 4300MHz±15MHz 検査項目にあり (出典：HONEYWELL RT-300 CMM A09-3531-010 以下同じ)</p>							
2 空中線電力	<p>上限：50% 下限：50% 【設備規則第14条より】</p>	<p>【定航協】 送信電力が以下の許容値内にあることを確認する。 450 mW 以上 (26.5 dBm 以上)</p> <p>【全航連】 ・160mW nominal (出典：KRA405B (HONEYWELL/ BENDIXKING) I/M (006-10536 -0010) ・150mW nominal (出典： KRA405 (HONEYWELL/BENDIXKING) I/M (006-00104-0006))</p> <p>【Peach】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dBm)</th> <th>Max (dBm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Output Power</td> <td>28.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典) CMM - ATP TEST LOG Example</p> <p>【海外物産】 5 Watts nominal 検査項目になし</p>	Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)	Output Power	28.0	35.0	<p>メーカーマニュアルでは、 ICAO ANNEX10 に規定されて いる有効通達距離を満足さ せる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局と の周波数共用の観点から上 限下限を規定。</p>
Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)							
Output Power	28.0	35.0							

【航空機用気象レーダー】

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由								
1 周波数の偏差	<table border="1" data-bbox="474 395 931 740"> <thead> <tr> <th>周波数</th> <th>指定周波数帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,400MHz</td> <td>5,385MHz から 5,415MHz まで</td> </tr> <tr> <td>9,345MHz</td> <td>9,320MHz から 9,370MHz まで</td> </tr> <tr> <td>9,375MHz</td> <td>9,350MHz から 9,400MHz まで</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="465 794 931 874">【設備規則第5条、平成18年1月25日総務省告示第57号より】</p>	周波数	指定周波数帯	5,400MHz	5,385MHz から 5,415MHz まで	9,345MHz	9,320MHz から 9,370MHz まで	9,375MHz	9,350MHz から 9,400MHz まで	<p data-bbox="976 357 1093 384">【定航協】</p> <p data-bbox="987 405 1227 432">6波の精度を確認、</p> <ul data-bbox="999 453 1402 1158" style="list-style-type: none"> ・ 9338MHz に対して 9337.492 から 9339.292MHz ・ 9335MHz に対して 9334.188 から 9335.988MHz ・ 9360MHz に対して 9359.028 から 9360.828MHz ・ 9353MHz に対して 9351.846 から 9353.646MHz ・ 9347MHz に対して 9346.122 から 9347.922MHz ・ 9342MHz に対して 9341.424 から 9343.224MHz <p data-bbox="1005 1034 1603 1158">(出典：Honeywell RTA-4B、Component Maintenance Manual。以下、定航協については同じ。)</p> <p data-bbox="976 1225 1093 1252">【全航連】</p> <ul data-bbox="999 1273 1603 1350" style="list-style-type: none"> ・ 9375±5MHz (RDR1400 (TELEPHONICS) I/M (006-00931-0007)) 	<p data-bbox="1644 357 2047 533">表記の違いであり、実質上はメーカーマニュアルの規定値が電波法令の規定値の範囲内となっている。</p>
周波数	指定周波数帯										
5,400MHz	5,385MHz から 5,415MHz まで										
9,345MHz	9,320MHz から 9,370MHz まで										
9,375MHz	9,350MHz から 9,400MHz まで										

		<ul style="list-style-type: none"> 9375±25MHz (PRIMUS-700 (HONEYWELL) System description and installation manual (A09-3945-001) <p>【Peach】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (MHz)</th> <th>Max (MHz)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Test - 9338 MHz</td> <td>9337.4</td> <td>9339.4</td> </tr> <tr> <td>Test - 9335 MHz</td> <td>9334.1</td> <td>9336.1</td> </tr> <tr> <td>Test - 9359 MHz</td> <td>9358.9</td> <td>9360.9</td> </tr> <tr> <td>Test - 9352 MHz</td> <td>9351.7</td> <td>9353.7</td> </tr> <tr> <td>Test - 9347 MHz</td> <td>9346.0</td> <td>9348.0</td> </tr> <tr> <td>Test - 9342 MHz</td> <td>9341.3</td> <td>9343.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典) CMM - Sample Test Log (APPENDIX A)</p> <p>【海外物産】 9345 to 9405MHz ART2100 CMM 検査項目にあり 5MHz 広い</p>	Test-Name	Min (MHz)	Max (MHz)	Test - 9338 MHz	9337.4	9339.4	Test - 9335 MHz	9334.1	9336.1	Test - 9359 MHz	9358.9	9360.9	Test - 9352 MHz	9351.7	9353.7	Test - 9347 MHz	9346.0	9348.0	Test - 9342 MHz	9341.3	9343.3	
Test-Name	Min (MHz)	Max (MHz)																						
Test - 9338 MHz	9337.4	9339.4																						
Test - 9335 MHz	9334.1	9336.1																						
Test - 9359 MHz	9358.9	9360.9																						
Test - 9352 MHz	9351.7	9353.7																						
Test - 9347 MHz	9346.0	9348.0																						
Test - 9342 MHz	9341.3	9343.3																						
2 空中線電力	<p>上限：50% 下限：50% 【設備規則第14条より】</p>	<p>【定航協】 パルス幅 18μs 50.1-125W パルス幅 6μs 40.7-125W パルス幅 1.5μs 31.6-125W</p> <p>【全航連】 ・ 10kW peak power</p>	<p>メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10 に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。 電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。</p>																					

(RDR1400 (TELEPHONICS) I/M
(006-00931-0007)

- 8.0KW nominal

(PRIMUS-700 (HONEYWELL) System
description and installation
manual (A09-3945-001)

【Peach】

Test-Name	Min (W)	Max (W)
PPM 8501 - 18 μ S	50.1	125.0
PPM 8501 - 6 μ S	40.7	125.0
PPM 8501 - 1.5 μ S	31.6	125.0

(出典) CMM - (3) (g) PULSE

TESTS PPM 8501

【海外物産】

4.2kW to 7.5kW ART2100 CMM 検査項目にあり

【航空機用救命無線機 (ELT)】 (調査中)

測定事項	電波法令における規定値	メーカーマニュアルにおける規定値	差異のある理由									
<p>1 A3X 電波 121.5MHz 及び 243MHz (A3E 電波 121.5MHz 及び 243MHz の無線電話を附属するものを含む。)を使用する航空機用救命無線機</p>												
<p>(2) 空中線電力</p>	<p>(2) 航空法施行規則(昭和27年運輸省令第56号)第150条に規定する航空機用救命無線機のもの、設備規則第45条の12の2及び同第14条第3項において、別に定める告示の基準による。</p> <p>その他のものは、同第14条第1項の基準による。</p> <p>上限： 50%</p> <p>下限： 20%</p> <p>【告示第 153 号より】</p>	<p>【定航協】</p> <p>Associated homing transmitter Frequency : 121.5 MHz & 243 MHz 121.5 MHz transmitter power : Typical 100 mW 243 MHz transmitter power : Typical 100 mW (出典 : ADT-406S CMM)</p> <p>【Peach】</p> <table border="1" data-bbox="1131 1121 1532 1362"> <thead> <tr> <th>Test-Name</th> <th>Min (dBm)</th> <th>Max (dBm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Output Power - 121.500 MHz</td> <td>19</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>Output Power -</td> <td>19</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)	Output Power - 121.500 MHz	19	24	Output Power -	19	24	<p>メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10 に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。</p>
Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)										
Output Power - 121.500 MHz	19	24										
Output Power -	19	24										

		<table border="1"> <tr> <td>243.000 MHz</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Output Power -</td> <td>35</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>406.028 MHz</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(出典) CMM - Limit of STB-06 software release</p>	243.000 MHz			Output Power -	35	39	406.028 MHz			
243.000 MHz												
Output Power -	35	39										
406.028 MHz												
2 A3X 電波 121.5MHz 及び 243MHz (A3E 電波 121.5MHz 及び 243MHz 無線電話を附属するものを含む。)を使用するものに加え G1B 電波 406MHz 帯を使用する航空機用救命無線機	<p>(1) A3X 電波又はA3E 電波 121.5MHz 及び 243MHzのもの 50(10-6)</p> <p>(2) G1B電波406MHzから406.1MHzまでのもの 5kHz</p> <p>【設備規則第 5 条より】</p>											
(2) 空中線電力	<p>(2) 設備規則第 45 条の 12 の 2 及び同第 14 条第 3 項において、別に定める告示の基準による。</p> <p>5W±2dB</p> <p>【告示第 153 号より】</p>	<p>【定航協】</p> <p>406 MHz satellite transmitter Frequency : 406.028 MHz Transmitter power : Typical 5 W, (出典 : ADT-406S CMM)</p> <p>【全航連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 121.5/243MHz : 20dBm to 26dBm for each frequency 406MHz : 37dBm±2dB <p>(出典 : KANNAD406AF-H (KANNAD) Technical</p>	<p>メーカーマニュアルでは、ICAO ANNEX10に規定されている有効通達距離を満足させる空中線電力値で規定。電波法令では他の無線局との周波数共用の観点から上限下限を規定。</p>									

Presentation of
KANNAD406AF-H (DOC99050)

- VHF :
minimum 50mw PERP for
50hours at -20°C or 100mw
EIRP for 48hours at-20°C
- UHF : 5W±2dB
(出典 : C406-1M (ARTEX/
Wulfsberg Electronics DIV)
Description Operation and
Maintenance Manual (570-
5001))
- 121.5MHz +19~+24dBm
243MHz +19~+24dBm
406MHz +35~+39dBm
(出典 : ADT406S (ELTA) CMM
(25-60-11))

【Peach】

Test-Name	Min (dBm)	Max (dBm)
Output Power - 121.500 MHz	19	24
Output Power - 243.000 MHz	19	24

		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1131 154 1319 209">Output Power -</td> <td data-bbox="1319 154 1426 209">35</td> <td data-bbox="1426 154 1532 209">39</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1131 209 1319 252">406.028 MHz</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	Output Power -	35	39	406.028 MHz			
Output Power -	35	39							
406.028 MHz									
		<p>(出典) CMM - Limit of STB-06 software release</p>							